

令和版

里ポ通信

番外編Vol. 4



2023年5月21日(日) 晴れ☀

今日は千葉大学大学院園芸学研究科ランドスケープ学コース教授の小林達明先生をお呼びして、里ポ内の研修会を行いました。テーマ『里山の自然環境とその管理』、第一部はおおぐろの森中学校多目的ホールにて講義、第二部は大畔の森と西初石小鳥の森にてフィールドワークを行いました。参加者は、大人23名、子ども10名でした。

第一部 講義



里山にはきちんとした定義がない。こうでなくてはならないということもない。そこに関わる人たちの考えもそれぞれ(自然が好き、植物や生き物の調査をやりたい、伐採をしたい、家族で自然に触れ合いたい等)なので、相談しながら進めていくとよい。

一次林→原生林。

二次林→原生林に手を入れた林。里山は二次林。

千葉県は昔は海で、地震のたびに隆起して陸地になったそう。大畔の森は、江戸時代は草原だった？！明治時代に松林と田んぼだった？

第二部 フィールドワーク



森の中を歩きながら、杉やシラカシ、クワなどは人が植えたもの、シロダモは鳥が実を落として勝手に生えてきたなど、木をみながら説明を受けました。

刈払機で草刈りをする際、木の根元にあたらないようにしましょう。できれば手刈りで。下の部分を傷つけると木に大きなダメージがくるそうです。



アオキ、シュロ、シロダモ、笹は手入れをしないと覆い繁ってしまいます。相談しながら手入れをしていきましょう。



今年のケヤキは数年に一度の生り年とすることで、実が沢山ついています。枝ごとくるくる落ちて遠くまで実を飛ばすことができます。



西初石小鳥の森の池。もはや池とは呼べない状態ですが、その中にハンノキがあります。ハンノキは幹の皮目(ひもく)から酸素を根に送ることができるので湿地の中でも育つことができます。